

インフルエンザの検査について

臨床検査室 植山 智春

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスによる気道感染症です。通常の風邪と比べ、症状が重く、感染力も強いことから特別の注意が必要です。

インフルエンザと風邪の症状の違いは、右の表の通りです。

このような症状が現れた場合は、早めに医療機関を受診して、適切な検査を受けるようにしましょう。

インフルエンザの症状	風邪の症状
・38℃以上の急な高熱 ・関節痛、筋肉痛、頭痛 ・高度の全身倦怠感 ・のどの痛み、咳、痰 など	・微熱 ・のどの痛み ・鼻水、鼻閉 など

インフルエンザの検査として、一般的に行われているのが、インフルエンザウイルスを検出する迅速検査法です。

綿棒で鼻の粘膜をこすり、試薬に浸し、15分ほどでインフルエンザに感染しているか結果がでます。

従来の迅速検査では、体内のウイルスが十分に増えて検査を行う必要があり、診断のために確実なのは、発熱して24時間が経過した時点でした。発熱直後では、インフルエンザに感染していた場合でも、ウイルス量が少なく、検査が陰性になってしまうことがありました。

しかし、当院では、2014年より銀増幅イムノクロマトグラフィー法という高感度のインフルエンザ迅速診断キット(AutoFlu)を用いることにより、従来より約32倍の検出感度となり、発熱より4～6時間からインフルエンザウイルスの検出が可能となりました。

判定も目視判定から、機器判定になり検出限界付近の判定の差異をなくしました。これにより患者さんの再来院や再検査による負担が軽減されました。

抗インフルエンザウイルス薬の服用も発症から48時間以内に開始すると、発熱期間が1～2日間短縮され、鼻やのどのウイルス排出量も減少しますので発症初期の検出率の向上は、大変意義のあることです。

2020年以降、新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスが同時に流行することが日常的になり、そこで新たに両ウイルスを同時に検査出来る迅速診断キットが開発されました。それにより鼻腔をぬぐう回数が減って患者さんの負担が軽減されました。同時測定迅速診断キットでも、インフルエンザ及び新型コロナウイルス単独の迅速診断キットの測定結果との高い一致率(相関)が報告されています。しかし、どの検査でも受けるタイミングによってはウイルスを検出することができない場合があるので注意が必要です。

インフルエンザの予防に効果が期待できるものに、ワクチン接種があります。

インフルエンザワクチンには、インフルエンザの発症を予防する効果と、発症しても重症化を防ぐ効果があります。ワクチン接種後2週間目頃から、5ヶ月間程度効果が持続するとされていますので、12月頃までに接種を完了することをおすすめします。

当院でも、インフルエンザワクチン接種を行っています。高校生以上の大人の方は接種できます。広島市にお住まいの65才以上の方や、60～64才で心臓・腎臓・呼吸器に大きな病気をお持ちの方は、インフルエンザワクチン接種費用が助成されます。インフルエンザワクチン接種には予約が必要ですので、詳しくは外来受付までお問い合わせください。

日常生活でできる予防法として

- 栄養と休養を十分取り、抵抗力を高めておく
- 室内を適正な温度と湿度(50%以上)に保つ
- 手洗いとうがいをこまめにする
- マスクで鼻やのどを守る
- 人ごみを避ける

まずは、インフルエンザにかからないように、予防しましょう。



インフルエンザ 予防接種

予約制

10月15日(水)～1月31日(土)

対象：15才(高校生)以上

金額：4,400円(税込)

(広島市在住

65才以上は1,600円)

